

青梅市文化財ニュース

第355号

平成29年5月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町1-684 TEL0428-23-6859）

青梅のカッパ

カッパは、日本の昔話では川や池などにすむ妖怪で、オカッパ頭の頭頂に水皿があり、甲羅を持ち、手足に水かきがついた童子として登場します。ところが、妖怪ではなく、カワウソがカッパに見間違われたのではないかという説があります。カワウソは、尾を支えにすると立ち上がり、水かきで巧みに泳ぎ、扁平な頭は皿を乗せているように見えるうえに、昔から人をだます、いたずらをするといわれていたので、カッパと間違われたのではないかというのです。

江戸時代には頻繁に姿が見られ、江戸市中を描いた岡本綺堂きどうの『半七捕物帳』の「広重と河童」という作品には、カワウソのいたずらに巻き込まれた町人の話が綴られています。また、港区赤坂の萩藩毛利屋敷跡遺跡では、自然死したと推定されるカワウソの骨が出土し、毛利家屋敷から程近い紀伊国坂付近きのくにの堀には、カッパがいたという話も伝わっています。しかし、明治になると自然環境が変化したようで、滅多に見られなくなったといえます。現在、ニホンカワウソは、昭和54（1979）年に高知県の新莊川しんじょうで目撃されて以来、公式には確認されておらず、絶滅した可能性が高いとされ、国の天然記念物に指定されています。

青梅にカッパあるいはカワウソはいたのでしょうか。棲んでいそうな水環境としては多摩川と荒川水系（霞川・黒沢川・成木川）があり、支流も多く流れています。そこで、カッパの話は沢山あるだろうと期待して、『青梅のむかし話』（青梅市教育委員会編）を開いてみました。児童文学者の小川秋子さんを中心に、青梅各地区から集めた話が65話採録されています。そのうちカッパの話は、驚いたことに「権左淵ごんざぶちのカッパ」という1話のみでした。権左淵はどこだろうと調べてみると、友田小学校北側の崖下付近の多摩川の淵です。権左淵で捕らえられたカッパは、ふだんは拝島の竜ヶ淵りゅうがぶちに棲んでいるが、権左淵には魚がたくさんいると聞いてやってきたと話します。1話きりしかないカッパの話も、青梅へ出張してきたカッパの話でした。おまけに、ふつうは山に棲むとされる天狗の話の中に、「川天狗」という話までありました。他所なら当然「カッパ」となる筈の話なのです。ちなみに、天狗の話は7話が採録されています。

カッパの話を探して、次に『青梅市の民俗』（第2分冊）の「口頭伝承」をみると、今井地区で1話採録されていました。

環境的には申し分ない青梅なので、カッパの話はまだあると思われます。御存じの方は教えてください。

関連情報ですが、この『青梅のむかし話』をはじめ、小川秋子さん著の青梅にまつわる物語本、児童文学作品、挿絵原画などを展示する「小川秋子」コーナーが、青梅市中央図書館4階に6月21日から8月14日の期間、開設されます。故小川秋子さんは青梅市文化財保護指導員としても活動され、青梅中の昔話の採録を目指した方でした。カッパや天狗はもちろん、オオカミ・妖怪・歴史ばなしなど、多彩な内容をお楽しみ頂けると思います。なお、一部の資料は梅郷図書館でもご利用可能です。

参考文献

山根洋子（2008）カワウソ『人と動物の日本史』（一）吉川弘文館

青梅市教育委員会（1994）川天狗・権左淵のカッパ『青梅のむかし話』22～23頁、53～57頁

青梅市教育委員会（1988）河童の話『青梅市の民俗』（第2分冊）208頁

（文責 三好ゆき江）